

## SUCCESS STORY 株式会社ミノウチ写真印刷

### KODAK SONORA XTRA スピーディな刷り出しで小ロットの仕事を高速処理

毎日60台240版をどん天返しで、しかも通し枚数は150～200枚程度という卒業アルバムの仕事では、立ち上がりの速いKODAK SONORA XTRAが最適と判断して導入。正味10分ほどで刷り終わる印刷ジョブを2台の印刷機で次々と高速処理。

#### 卒業アルバムの一貫生産体制が強み

京都市中京区に本社、南区に工場を構える株式会社ミノウチ写真印刷は、大正元年（1913年）創業以来、100余年の歴史を刻んできた老舗印刷会社である。京都観光絵はがきの手刷りコロタイプ印刷から始まり、戦後は学校卒業アルバムの制作に本格参入し、1961年には現在の株式会社ミノウチ写真印刷を設立した。1975年にはオフセット印刷設備を導入し、アルバム印刷のカラー化に着手。小ロットでも高品質なオフセット印刷で定評ある卒業アルバムは、撮影から編集、DTP、印刷、製本まで社内一貫生産体制を構築することで同社の大きな強みとなっている。さらに近年では厚紙対応の6色UV印刷機を導入し、アルバムケースの内製化はもちろん、外国人観光客向けの印刷物や京都観光土産のパッケージ印刷分野にも参入するなど事業の幅を大きく拡大している。

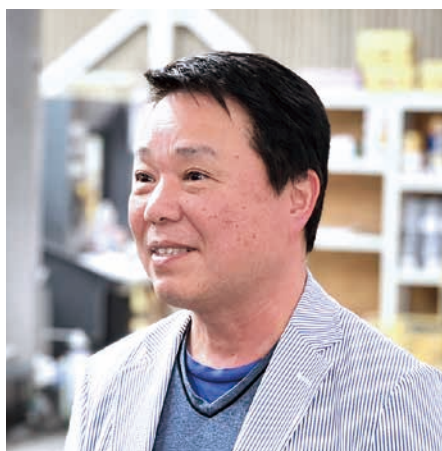
「視認性はもちろんですが、刷り出しからわずか15枚で機上現像が完了し、すぐにOKシートが得られるのには、本当に驚きました」

#### KODAK TRENDSETTERの性能と安定性を高く評価

同社が初めてKODAK TRENDSETTERプレートセッターとKODAK PRINERGY WORKFLOWソフトウェアを導入したのは2004年のこと。以来20年近くにわたって、KODAKの技術が同社の製版部門を支えてきた。同社にとって最初のCTPだったKODAK TRENDSETTERについて、代表取締役社長の蓑内隆弘氏は、次のように絶賛する。「もの凄く優秀で何のトラブルもない。故障もしない素晴らしいプレートセッターでした。今までいろいろな機械を使ってきましたが、



代表取締役社長 蓑内 隆弘 氏



常務取締役 蓑内 裕之 氏



外国人観光客向け印刷物の需要が拡大





2020年にKODAK TRENDSETTER Q800 ALを導入



小ロットの印刷ジョブを効率良く処理する菊全判4色機



卒業アルバムの一貫した社内生産体制を構築

TRENDSETTERのように堅牢で安定した性能の機械は他にはありませんでした」

2020年にCTPの更新時期が来た時も、同社は迷いなくKODAK TRENDSETTERの最新モデルKODAK TRENDSETTER Q800 AL（オートローダー付）を選択した。同時にKODAK SONORA CX2 プロセスフリープレートを採用し、現像レスのCTPワークフローを構築した。またCTPの設置場所を本社から京都南工場へと移転し、印刷現場のすぐそばでプレートを出力する、瞬発力と柔軟性に富んだ生産体制を実現した。常務取締役の蓑内裕之氏は現像レスの新しいワークフローのメリットについて、次のように指摘する。

「従来は刷版を受け取るために本社・工場間を一日に何往復もしていましたが、今は必要なときに必要な刷版を印刷現場のすぐそばで出力できます。本社からネット経由で送られてくるデータをPRINERGYのフォルダーに放り込むだけで、素早く簡単に刷版を出力できるので、専任のオペレータは必要ありません。あとはTRENDSETTERが自動で刷版を出力してくれます。輸送の手間と時間がなく、現像機や現像液に関わる面倒な調整作業も不要になりました」

さらに廃液の回収費用や現像液・薬品類の購入費用がゼロになるなど、コスト削減効果も大きく、蓑内社長は「もう二度と現像機のあるワークフローには戻れない」と断言する。またKODAK TRENDSETTERの新しいリモートサービスも高く評価された。万一トラブルが発生しても、そのほとんどをネット経由のリモートで解決出来るため、電話ひとつですぐに復旧する。サービスマンの訪問を首を長くして待つ必要はなく、仕事への影響は最小限に抑えられる。

## 立ち上がりが速いと KODAK SONORA XTRAを絶賛

2022年秋、KODAKが国内向けにKODAK SONORA XTRA プロセスフリープレートを発表すると、同社はすぐに印刷テストを始め、12月には本格的な導入を決めた。KODAK SONORA XTRAは、「視認性」「感度」「耐傷性」「耐刷性」を大幅に改良し、国内印刷市場向けに最適化された製品だが、導入を決めた決定的要因は他にあったと蓑内社長は話している。

「確かに『視認性』『耐刷性』は格段に向上していました。ただ、当社が導入を決めた最大の理由は『立ち上がりの速さ』と『刷りやすさ』という、プレート本来が持つ基本性能の良さでした。特に刷り出しからわずか15枚で機上現像が完了し、すぐにOKシートが得られるのには、本当に驚きました」

KODAK SONORA XTRAは「卒業アルバムの仕事にぴったりだった」と語るのは蓑内常務だ。「繁忙期には、毎日60台240版の印刷ジョブをすべてどん天返しで印刷しなくてはなりません。しかも通し枚数は150～200枚程度なので、わずか1～2分で刷り終わります。その後はブランケットを洗浄し版を返して印刷する、この繰り返しです。また卒業アルバムは写真中心の紙面なので、インキ保有量はほとんど変わりません。紙も変わらず正味

10分ほどで刷り終わる印刷ジョブを次々と処理するためには、立ち上がりの速さが重要でSONORA XTRAはまさにぴったりの刷版でした」

卒業アルバムの繁忙期は1～3月。刷版も、紙も、ブランケットも冷えてる。インキは恒温装置で温めているが、それでも休み明けの朝はなかなか立ち上がらないという。こうした悪条件のなかでも「楽に刷れている」と蓑内常務はKODAK SONORA XTRAを評価する。この時期、同社ではKODAK SONORA XTRAを月平均3,000版以上出力し、2台の菊全判印刷機（4色機・6色UV機）に供給しているそうだ。

## 卒業アルバムは未来に残すべき文化

卒業アルバムにとって少子化は逆風である。しかし印刷部数は減ってもYouTubeと連携したマルチメディア展開、パーソナル化など、生き残る道は幾つもあると蓑内社長はいう。新しい付加価値をつけながら、印刷物としての卒業アルバムを文化として未来に残してゆく、こうした同社の使命をKODAKの製品と技術が、今後もしっかりとサポートしてゆくことだろう。

**株式会社ミノウチ写真印刷**

代表取締役社長：蓑内 隆弘  
 本社：〒604-0025 京都市中京区衣棚通二条南入  
 TEL：075-231-4075  
 京都南工場：〒601-8128 京都市南区上鳥羽大柳町 35  
 TEL：075-634-6015  
<https://www.minouchi.co.jp>



この印刷物は、KODAK SONORA XTRA プロセスフリープレートを使用して印刷しています。



**コダック ジャパン**

<https://www.kodak.com/ja>

〒140-0002 東京都品川区東品川4-10-13 TEL.03-6837-7285(営業代表)

大阪：050-3819-1266 名古屋：050-3819-1265

福岡：050-3819-1270 札幌：050-3819-1250